

協議資料 1 -

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 7年 1月 7日

協議会名: 上田市公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
上田バス株式会社	上田駅～ 信州上田医療センター 運行系統名: 信州上田医療センター線	◆利用者の利便性向上や 利用促進を図るため、以下 の取り組みを実施・継続し た。 ①運賃低減バス事業実施 継続 ②R5.10.28に開催された「バ スまつりinNAGANO」へ参加 し、子供たちにバス乗車体 験をしてもらうなど将来の利 用促進の為の事業を開催 ③小学生対象としたバス乗 り方教室を各学校に赴き実 施 ④保育園児を対象とした「バ スの乗り方教室」を実施 実績: R5.11.7 塩田中央保育園 R5.11.21 神科第一保育園 R6.4.12 神川保育園(営業 所内の花見も同時開催) R6.8.6 神川保育園 ⑤車いす・ベビーカーを利用 していてもバスをご利用い ただけることを周知するため、 R5.11月アリオ上田・R6.9月 に道と川の駅にて「車イス・ ベビーカー対象バスの乗り 方教室」を開催 ⑥R6.4月、アリオ上田にて、 「まちのバス大集合」として 文化団体の作品をバスに展 示したギャラリーバスを展 示。 そのほかにも子供たちに運 転席に乗ってもらい記念撮 影会を開催したほか、QR端 末を使い決済方法の体験会 や乗車体験等バス利用促 進を推進するための事業を 実施。 ⑦9月20日のバスの日に合 わせ、上田駅にてノベルティ を配布し、バスの利用促進 を図った。	A	計画に位置された事 業は、適切に実施され た。	C	・運行コストは目標値1キロ 当たり466円79銭以内のと ころ、528円92銭で目標を達 成できなかった。 ・収支率については目標値 60%以上のところ、28.40% で目標を達成できなかった。 ・乗車人員は目標値43,120 人以上のところ、実績は 23,471人となり、達成できな かった。 (昨年度実績: 35,749人 ※ 今年度減便を実施)	
	上田駅～別所温泉 運行系統名: 塩田線	R5.11.7 塩田中央保育園 R5.11.21 神科第一保育園 R6.4.12 神川保育園(営業 所内の花見も同時開催) R6.8.6 神川保育園 ⑤車いす・ベビーカーを利用 していてもバスをご利用い ただけることを周知するため、 R5.11月アリオ上田・R6.9月 に道と川の駅にて「車イス・ ベビーカー対象バスの乗り 方教室」を開催 ⑥R6.4月、アリオ上田にて、 「まちのバス大集合」として 文化団体の作品をバスに展 示したギャラリーバスを展 示。 そのほかにも子供たちに運 転席に乗ってもらい記念撮 影会を開催したほか、QR端 末を使い決済方法の体験会 や乗車体験等バス利用促 進を推進するための事業を 実施。 ⑦9月20日のバスの日に合 わせ、上田駅にてノベルティ を配布し、バスの利用促進 を図った。	A	計画に位置された事 業は、適切に実施され た。	B	・運行コストは目標値1キロ 当たり466円79銭以内のと ころ、528円92銭で目標を達 成できなかった。 ・収支率については目標値 15%以上のところ、10.41% で目標を達成できなかった。 ・輸送人員は目標値11,696 人以上のところ、実績は 12,406人となり、目標を達 成した。 (昨年度実績: 11,758人 ※ 今年度減便を実施) ・輸送人員の改善は、通学 定期が対前年1,092人増加 した事が要因。	◆乗務員確保の取り組み ・2024年問題もあり、乗務員の 不足が厳しさを増している状態 である。そのため、まずは乗務 員の確保を大きな課題とし、以 下の取り組みを実施する。 ①他社や自治体と連携した会 社説明会を実施するとともに、 バスに実際に乗車し運転体験 をしていただく説明会も開催す る。 ②移住者の雇用開発の為、都 内にてプレゼン開催 ③イベント開催時に会社紹介 パンフレットを設置する。 ◆経費削減の取り組み ・燃料費高騰が続く中で、経費 削減を図るため、以下の取り組 みを実施する。 ①アイドリングストップの実施を 継続する。 ◆利用促進・利便性向上の取 り組み ・バスの乗り方や停留所の位 置がわからないという理由か ら、公共交通の利用を避けて いる方も一定数いる。そのよう な方にバスを使用していただ き、輸送人員を増加させる、ま た、利便性向上を図り、現在の 利用者のバス離れを防ぐことを 目的に以下の取り組みを実施 する。 ①上田市公共交通活性化協議 会との共催で市内ショッピング センターでの野外イベントを継 続して実施する。 ②公共交通への親しみを抱い ていただくとともに、将来の通 学・通勤の選択肢としてバスを 認識していただくよう、保育園 児を対象とした「バスの乗り方 教室」を開催する。 ③普段公共交通を利用しない 方に対し、停留所の位置や乗 車方法を教える等の教室を開 催し、利用促進に努める。 ⑥TicketQRの共通券化を行 い、利用者にとってより利便性 が高く、シームレスな移動を行 えるようなシステムとしていく。
	上田駅～染谷丘高校～ 上田駅 運行系統名: 市街地循環バス (青バス 東回り)	◆バス事業者の現金管理コ スト等削減を目的の1つとし て導入されたTicketQR利用 促進のため、以下の取り組 みを実施・継続した。 ①夏休み、市内小学生を対 象にキッズバスなる無料乗 車券を配布し利用の促進を 図る。その際、紙製QRカー ドによるキッズバスを作成し 好評を得る 各路線結果は以下の通り 医療センター線 24人 塩田線 4人 循環線 14人 久保林線 16人 ②R6.9月開催の上田道と川 の駅イベントにて「公共交通 を知ろう!」の企画を実施。 公共交通クイズの実施や TicketQRの説明、また、 TicketQRアプリをダウン ロードしていただいた方へノ ベルティを配布した。	A	計画に位置された事 業は、適切に実施され た。	B	・運行コストは目標値1キロ 当たり466円79銭以内のと ころ、528円92銭で目標を達 成できなかった。 ・収支率については目標値 15%以上のところ、11.82% で目標を達成できなかった。 ・輸送人員は目標値青バス 18,805人以上、赤バス 11,122人以上のところ、実 績は青バス15,717人、赤バ ス11,657人となり、青バス は目標を達成できなかった が赤バスは達成した。(昨 年度実績、青バス 13,476人、赤バス、10,153 人 ※今年度減便を実施)	
	上田駅～西上田駅～ 上田駅 運行系統名: 市街地循環バス (青バス 西回り)	◆バス事業者の現金管理コ スト等削減を目的の1つとし て導入されたTicketQR利用 促進のため、以下の取り組 みを実施・継続した。 ①夏休み、市内小学生を対 象にキッズバスなる無料乗 車券を配布し利用の促進を 図る。その際、紙製QRカー ドによるキッズバスを作成し 好評を得る 各路線結果は以下の通り 医療センター線 24人 塩田線 4人 循環線 14人 久保林線 16人 ②R6.9月開催の上田道と川 の駅イベントにて「公共交通 を知ろう!」の企画を実施。 公共交通クイズの実施や TicketQRの説明、また、 TicketQRアプリをダウン ロードしていただいた方へノ ベルティを配布した。	A	計画に位置された事 業は、適切に実施され た。			
	上田駅～西上田駅～ 上田駅 運行系統名: 市街地循環バス (赤バス 西回り)	◆バス事業者の現金管理コ スト等削減を目的の1つとし て導入されたTicketQR利用 促進のため、以下の取り組 みを実施・継続した。 ①夏休み、市内小学生を対 象にキッズバスなる無料乗 車券を配布し利用の促進を 図る。その際、紙製QRカー ドによるキッズバスを作成し 好評を得る 各路線結果は以下の通り 医療センター線 24人 塩田線 4人 循環線 14人 久保林線 16人 ②R6.9月開催の上田道と川 の駅イベントにて「公共交通 を知ろう!」の企画を実施。 公共交通クイズの実施や TicketQRの説明、また、 TicketQRアプリをダウン ロードしていただいた方へノ ベルティを配布した。	A	計画に位置された事 業は、適切に実施され た。			
	上田駅～染谷丘高校～ 上田駅 運行系統名: 市街地循環バス (赤バス 東回り)	◆バス事業者の現金管理コ スト等削減を目的の1つとし て導入されたTicketQR利用 促進のため、以下の取り組 みを実施・継続した。 ①夏休み、市内小学生を対 象にキッズバスなる無料乗 車券を配布し利用の促進を 図る。その際、紙製QRカー ドによるキッズバスを作成し 好評を得る 各路線結果は以下の通り 医療センター線 24人 塩田線 4人 循環線 14人 久保林線 16人 ②R6.9月開催の上田道と川 の駅イベントにて「公共交通 を知ろう!」の企画を実施。 公共交通クイズの実施や TicketQRの説明、また、 TicketQRアプリをダウン ロードしていただいた方へノ ベルティを配布した。	A	計画に位置された事 業は、適切に実施され た。		・乗車人員の増加による運 収増が図られた。	
	上田駅～イオン上田ショッピ ングセンター前～ 久保林公民館前 運行系統名: 久保林線	◆乗務員確保と経費削減を 目的に以下の取組を実施・ 継続した。 ①バスの運転体験ができる 会社説明会や就職説明会、 移住相談セミナーを他社や 自治体と連携し行い、運転 手確保を行った ②燃料費高騰に伴い、燃費 削減のために乗務員に対し アイドリングストップの通達 などを出し、経費削減や環 境に対する配慮を促した	A	計画に位置された事 業は、適切に実施され た。	C	・運行コストは目標値1キロ 当たり466円79銭以内のと ころ、528円92銭で目標を達 成できなかった。 ・収支率については目標値 15%以上のところ3.7%で目 標を達成できなかった。 ・乗車人員は目標値3,456 人以上のところ、実績は 2,177人となり、達成できな かった。 (昨年度実績: 2,370人 ※ 今年度減便を実施)	

千曲バス株式会社	室賀線 下秋和～小泉～入組	◆市と連携したバス利用啓発活動として以下の取り組みを実施・継続した。 ①運賃低減バス事業実施継続 ②園児対象としたバス乗り方教室を各保育園に赴き実施 実績： R5.11.8 中丸子保育園 R6.8.5 まるこ保育園 R6.8.7 室賀・浦里保育園 ③高校入学を控えた中学3年生に対し、通学のための利用促進チラシの配布や、上田駅などで公共交通利用促進チラシの配布を行い利用に向けたPRを行った ④車いす・ベビーカーを利用していてもバスをご利用いただけることを周知するため、R5.11月にアリオ上田にて「車イス・ベビーカー対象バスの乗り方教室」を開催 ⑤R6.4月、アリオ上田にて、「まちのバス大集合」として文化団体の作品をバスに展示したギャラリーバスを展示。 そのほかにも子供たちに運転席に乗ってもらい記念撮影会を開催したほか、QR端末を使い決済方法の体験会や乗車体験等バス利用促進を推進するための事業を実施。 ⑥9月14日、バスまつりinNAGANOに参加し、バス乗車体験をしてもらうなど利用促進の為の事業を開催 ⑦9月20日のバスの日に合わせ、上田駅にてノベルティを配布し、バスの利用促進を図った	A	事業が計画に位置付けられた通り、適切に実施された。	B		◆乗務員確保・経費削減の取り組み ・昨年度同様、物価の高騰や乗務員不足が問題である。乗務員確保に向けた活動は継続して行う。また、乗務員確保に関する人件費およびその他費用が引き続き増加することは目に見えているため、経費削減に向け、以下の取り組みを実施する。 ①アイドリングストップを継続して周知徹底する。 ②他社や自治体と連携した会社説明会を実施するとともに、バスに実際に乗車し運転体験をしていただく説明会を継続し開催する。 ③イベント開催時に会社紹介パンフレットを設置する。
	室賀線 入組～小泉～房山	◆バス事業者の現金管理コスト等削減を目的の1つとして導入されたTicketQR利用促進のため、以下の取り組みを実施・継続した。 ①夏休み、市内小学生を対象にキッズバスなる無料乗車券を配布し利用の促進を図る。その際、紙製QRカードによるキッズバスを作成し好評を得る各路線結果は以下の通り 室賀線実績 28人 ②R6.9月開催の上田道と川の駅イベントにて「公共交通を知ろう！」の企画を実施。公共交通クイズの実施やTicketQRの説明、また、TicketQRアプリをダウンロードしていただいた方へノベルティを配布した。 ◆乗務員確保と経費削減を目的に以下の取組を実施・継続した。 ①バスの運転体験ができる会社説明会や就職説明会、移住相談セミナーを他社や自治体と連携し行い、運転手確保を行った(採用2名、内1名退職) ②燃料費高騰に伴い、燃費削減のために乗務員に対しアイドリングストップの通達などを出し、経費削減や環境に対する配慮を促した				・運行コストは542円以内に對し577円20銭で目標を達成できなかった。 ・収支率については、目標26%以上に対し26.04%となり目標を達成した。 ・乗車人数は29,100人以上に対し31,446人となり目標を達成した。 (昨年度実績：30,111人) ・収支率、乗車人員については目標を達成できなかった。理由としては、賃金の上昇、物価・燃料等の高騰、車両修繕費による経費の増加により運行コストの増加となったため。	

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 7年 1月 7日

協議会名:	上田市公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	上田市におけるバス路線の集積点は、上田駅となっており、市域内に広範に路線バス、コミュニティバス、デマンド交通等により構成される公共交通機関網が広がっている。 これらの公共交通については、市街地中心部の総合病院をはじめとする各種医療機関、大規模ショッピングセンター等が当市民の日常生活機能を担う中で、各地域からのバス路線が市街地に向かう唯一の手段として、車を運転できない高齢者等を中心に、生活に必要不可欠な交通として機能している。 しかしながら、人口減少と自家用車の普及により、当市の公共交通機関の利用者は減少傾向にあり、収支悪化による行政負担の増加をはじめ、運行に様々な問題が発生している。 従来自主運行してきたものの、収支の悪化により存続が困難となっている上田バス(株)が運行する塩田線、信州上田医療センター線、千曲バス(株)が運行する室賀線については、塩田・川西地域の住民の通院・買い物を中心とした生活に不可欠な路線として存続させていくことが必要であるため、地域公共交通確保維持事業により、塩田線、信州上田医療センター線、室賀線の確保・維持を図りたい。 上田市街地循環バスについては、上田市街地の公共施設をはじめとした拠点施設等を結び、市民の通学や通院、買い物をはじめ、観光的な利用も含めた市街地の回遊性向上を目的として運行しており、本事業による路線の維持・確保を図りたい。 また、平成28年10月から運行を開始した上田バス(株)の久保林線は、交通空白地帯の久保林地区と上田駅を結ぶ、生活に必要な交通体系を確保するとともに、中心市街地活性化に結びつけていく路線として存続が不可欠である。 さらに、同年12月に、まちづくりと連携し、公共交通ネットワークを一体的に形づくり、持続させることを目的に地域全体の公共交通ネットワークシステムの在り方などを定めた「上田市公共交通網形成計画」を作成した。 また、「上田市地域公共交通網形成計画」の計画期間終了、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の改正などを鑑み、「上田市地域公共交通計画」を令和5年9月に策定した。本計画に基づき、都市機能や市民の移動ニーズに対応し、地域公共交通の利便性・持続可能性・生産性向上を図っていく。

生活交通確保維持改善計画（地域内フィーダー系統確保維持計画を含む）

令和 5 年 6 月 7 日
 一部改正 令和 5 年 9 月 1 4 日
 一部改正 令和 6 年 2 月 7 日

（名称） 上田市公共交通活性化協議会
 （代表者名） 会長 佐藤 安則

生活交通確保維持改善計画の名称

上田市地域内フィーダー系統確保維持計画（令和 6 年度～令和 8 年度）

1. 地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性

上田市におけるバス路線の集積点は、上田駅となっており、市域内に広範に路線バス、コミュニティバス、デマンド交通等により構成される公共交通機関網が広がっている。

これらの公共交通については、市街地中心部の総合病院をはじめとする各種医療機関、大規模ショッピングセンター等が当市民の日常生活機能を担う中で、各地域からのバス路線が市街地に向かう唯一の手段として、車を運転できない高齢者等を中心に、生活に必要な不可欠な交通として機能している。

しかしながら、人口減少と自家用車の普及により、当市の公共交通機関の利用者は減少傾向にあり、バス事業者の収支悪化による行政負担の増加をはじめ、運行に様々な問題が発生している。

従来自主運行してきたものの、収支の悪化により存続が困難となっている上田バス(株)が運行する塩田線、信州上田医療センター線、千曲バス(株)が運行する室賀線については、塩田・川西地域の住民の通院・買い物を中心とした生活に不可欠な路線として存続させていくことが必要である。このため、地域公共交通確保維持事業により、塩田線、信州上田医療センター線、室賀線の確保・維持を図りたい。

上田市街地循環バスについては、上田市街地の公共施設をはじめとした拠点施設等を結び、市民の通学や通院、買い物を始め、観光的な利用も含めた市街地の回遊性向上を目的として運行しており、本事業による路線の維持・確保を図りたい。

また、平成28年10月から運行を開始した上田バス(株)の久保林線は、交通空白地帯の久保林地区と上田駅を結ぶ、生活に必要な交通体系を確保するとともに、中心市街地活性化に結びつけていく路線として存続が不可欠である。

なお、同年12月には、まちづくりと連携し、公共交通ネットワークを一体的に形づくり、持続させることを目的に地域全体の公共交通ネットワークシステムの在り方などを定めた「上田市地域公共交通網形成計画」を作成した。

また、「上田市地域公共交通網形成計画」の計画期間終了、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の改正などを鑑み、都市機能や市民の移動ニーズに対応し、地域公共交通の利便性・持続可能性・生産性向上を図ることを目的とした「上田市地域公共交通計画」を令和 5 年 9 月に策定した。

2. 地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果

(1) 事業の目標

【上田バス(株)】

(乗車人員)

信州上田医療センター線の乗車人員を 43,120 人以上、塩田線の乗車人員を 11,696 人以上、上田市街地循環バスの乗車人員を青バス 18,805 人以上、赤バス 11,122 人以上、久保林線の乗車人員を 3,456 人以上とする。

(運行コスト)

各路線の運行コストを 1 km 当たり 466.79 円以内とする。

信州上田医療センター線の収支率を 60% 以上、塩田線・上田市街地循環バス・久保林線の収支率を 15% 以上とする。

【千曲バス(株)】

(乗車人員)

室賀線の乗車人員を 29,100 人以上とする。(算出根拠は昨年 28,812 人だった為、1% を上乗した数字を目標とした。)

(運行コスト)

令和 4 年度 (10 月～9 月) の運行コスト実績が 1 km 542 円 13 銭のため、室賀線の運行コストを 1 km 当たり 542 円以内とする。

(令和 4 年度 (10 月～9 月) の収支率の実績が室賀線 25.12% のため、収支率を 26% 以上とする。前年度の実績値を参考とした。)

(2) 事業の効果

【塩田線】

塩田線を維持することにより、西塩田地区の交通不便地域の日常生活に必要な不可欠な移動手段が確保される。また、上田電鉄別所線塩田町駅等と接続することにより、効率的な運行体系が実現できる。さらには、外出促進・地域活性化にもつながる。

【信州上田医療センター線】

上田駅及び地域間幹線系統と上田市の中核拠点病院である信州上田医療センターを効率的に結び、病院通院者および周辺住民の利便性を図る。

【室賀線】

室賀線を維持することにより、川西地域の交通不便地域の日常生活に必要な不可欠な移動手段が確保される。また、上田駅と接続することにより、効率的な運行体系が実現できる。さらには、外出促進・地域活性化にもつながる。

【上田市街地循環バス】

市街地循環バスを運行することにより、周辺住居地域と市街地主要施設を結び、中心市街地への買い物需要や病院・高校等への通院・通学の利便性を確保し、また上田駅等と接続することにより、観光振興の視点を踏まえた効率的な運行体系が実現できる。

【久保林線】

久保林地区住民からの要望を踏まえ、公共交通空白地帯の久保林地区と上田駅を結ぶ生活交通の足を確保することにより、地域住民の外出促進、中心市街地の活性化につなげる。

3. 2. の目標を達成するために行う事業及びその実施主体
・ダイヤ改正やバス停変更に合わせて時刻表を改定し、印刷のうえ配布する。(上田市公共交通活性化協議会) ※上田市地域公共交通網形成計画 P73 ・小学校の夏休み期間に「夏休みキッズバス企画」を実施し、家族でのバス利用を促し、公共交通の役割や重要性等について理解を深め、親しんでもらうとともに、将来の利用促進につなげていく。(上田市公共交通活性化協議会・バス事業者) ※上田市地域公共交通網形成計画 P42 ・市内を運行するバス車両、文化団体の作品・園児による絵を飾ったギャラリーバスの展示や乗車体験、QR コード決済体験を通して、公共交通を知っていただくきっかけを作り、将来の利用促進につなげていく。(上田市公共交通活性化協議会・バス事業者) ・高校入学を控えた中学3年生や在学中の高校生に対し、通学における公共交通の利用促進チラシを配布する。(上田市公共交通活性化協議会) ・市内の小中学生、また、運転免許証を返納した高齢者を対象とした「バス乗り方教室」を開催し、モビリティマネジメントに取り組む。(上田市公共交通活性化協議会・バス事業者) ※上田市地域公共交通網形成計画 P74 ・運転免許自主返納促進事業におけるタクシー利用補助券申請者に対して、バスの時刻表、路線図等を補助券送付時に同封し、配布する。(上田市公共交通活性化協議会) ・QRコード決済により公共交通をキャッシュレスで利用できるプロジェクトの周知PRを徹底し、利用者にとっての利便性の向上、事業者にとっての生産性の向上を図るとともに、様々な施策との連携による波及効果を図る。(上田市公共交通活性化協議会・バス事業者) ・「バスの運転体験ができる会社説明会」の開催や就職説明会、移住相談セミナーへの参加、運転二種免許取得に関わる費用支援制度導入に向けた調査及び研究を実施し、運転手確保を図る。(上田市公共交通活性化協議会・バス事業者)
4. 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運行予定者
表1のとおり
5. 地域公共交通確保維持事業に要する費用の負担者
上田市から運行事業者への補助金額については、運行収入及び国庫補助金を運行経費から差し引いた差額分を負担することとしている。
6. 補助金の交付を受けようとする補助対象事業者の名称
上田バス(株)、千曲バス(株)
7. 補助を受けようとする手続きに係る利用状況等の継続的な測定方法 【活性化法定協議会を補助対象事業者とする場合のみ】
該当なし
8. 別表1の補助対象事業の基準二ただし書に基づき、協議会が平日1日当たりの運行回数が3回以上で足りると認めた系統の概要 【地域間幹線系統のみ】
該当なし

9. 別表 1 の補助対象事業の基準ハに基づき、協議会が「広域行政圏の中心市町村に準ずる生活基盤が整備されている」認めた市町村の一覧 【地域間幹線系統のみ】
該当なし
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項 【地域間幹線系統のみ】
該当なし
11. 外客来訪促進計画との整合性 【外客来訪促進計画が策定されている場合のみ】
該当なし
12. 地域公共交通確保維持改善事業を行う地域の概要 【地域内フィーダー系統のみ】
地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱「表 5」を添付。
13. 車両の取得に係る目的・必要性 【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
該当なし
14. 車両の取得に係る定量的な目標・効果 【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
(1) 事業の目標
該当なし
(2) 事業の効果
該当なし
15. 車両の取得計画の概要及び車両の取得を行う事業者、要する費用の負担者【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
該当なし
16. 老朽更新の代替による費用の削減等による地域公共交通確保維持事業における収支の改善に係る計画（車両の代替による費用削減等の内容、代替車両を活用した利用促進策） 【公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
該当なし

17. 協議会の開催状況と主な議論

令和元年 5 月 29 日	地域間幹線系統確保維持計画、上田市生活交通確保維持改善計画、運賃低減バス運行計画等について承認
令和元年 11 月 22 日	県道川西線、鹿教湯線の一部系統の廃止、まちなか循環バスの休止等について承認
令和 2 年 2 月 14 日	地域公共交通確保維持改善事計画（運行事業者変更）変更、交通不便地域の解除（古安曾地域・富士山地域）、新規申請（城下地域）等について承認
令和 3 年 2 月 10 日	まちなか循環バス、上田城下線の廃止等について承認
令和 3 年 3 月 24 日	書面協議による協議会を開催し、信州の鎌倉シャトルバス線の廃止及び信州上田レイライン線の新設について承認
令和 3 年 6 月 1 日	佐久上田線の廃止について承認
令和 3 年 11 月 22 日	豊殿地区自主運行循環バス（あやめ号）の廃止について承認
令和 4 年 1 月 7 日	書面協議による協議会を開催し、上田市生活交通確保維持改善計画（フィーダー系統）の事業評価について承認
令和 4 年 5 月 25 日	地域間幹線系統確保維持計画、上田市生活交通確保維持改善計画、運賃低減バス運行計画等について承認
令和 4 年 7 月 29 日	書面協議による協議会を開催し、オレンジバス東塩田コースの認可・廃止（一部路線）、上田草津線（特急湯畑号）の特殊割引運賃について承認
令和 4 年 9 月 28 日	書面協議による協議会を開催し、上田草津線（特急湯畑号）の運行回数、及び時刻の変更について承認
令和 4 年 11 月 16 日	書面協議による協議会を開催し、道路形状の変更に伴う認可（廃止）申請について承認
令和 5 年 2 月 1 日	書面協議による協議会を開催し、上田草津線（特急湯畑号）の国道 144 号（鳴岩橋）開通に伴う認可申請について承認
令和 5 年 2 月 27 日	書面協議による協議会を開催し、上田市生活交通確保維持改善計画（フィーダー系統・バリア解消）の事業評価、上田市街地循環バス（青バス東コース）・信州上田医療センター線・塩田線のダイヤ改正について承認
令和 5 年 3 月 16 日	書面協議による協議会を開催し、信州上田レイライン線・西丸子線のダイヤ改正について承認
令和 5 年 6 月 7 日	地域間幹線系統確保維持計画、上田市生活交通確保維持改善計画、運賃低減バス運行計画等について承認
令和 5 年 9 月 14 日	上田市地域公共交通計画（骨子案）について報告し、意見交換を実施 上田市地域公共交通計画（素案）について承認 （令和 5 年 9 月 29 日 上田市地域公共交通計画を策定）
令和 5 年 12 月 25 日	上田市生活交通確保維持改善計画（フィーダー系統）の事業評価について承認、上田草津線の運休について報告
令和 6 年 2 月 7 日	市内バス路線の減便、また、減便に伴う地域間幹線系統確保維持計画、および上田市生活交通確保維持改善計画（地域内フィーダー系統確保維持計画）の変更について承認

18. 利用者等の意見の反映状況

路線ごとに利用啓発を図るとともに、住民からの要望を踏まえたダイヤ変更等の改善を行いながら利用人員の増加を図り、路線の維持確保につなげていく。

19. 協議会メンバーの構成員	
関係都道府県	長野県企画振興部交通政策局交通政策課、長野県上田地域振興局企画振興課
関係市区町村	上田市（都市建設部、福祉部）
交通事業者・交通施設管理者等	東日本旅客鉄道(株)長野支社上田駅、しなの鉄道(株)、上田電鉄(株)、上田バス(株)、千曲バス(株)、東信観光バス(株)、ジェイアールバス関東(株)小諸支店、一般社団法人長野県タクシー協会上小支部、千曲バス労働組合、上田警察署、国土交通省長野国道事務所、長野県上田建設事務所、上田市都市建設部管理課
地方運輸局	北陸信越運輸局、北陸信越運輸局長野運輸支局
その他協議会が必要と認める者	上田市自治会連合会、上田市社会福祉協議会、上小圏域障害者総合支援センター、上田婦人団体連絡協議会、上田市身体障害者福祉協会、上小高等学校長会、名古屋大学客員准教授

【本計画に関する担当者・連絡先】

（住 所） 上田市大手1丁目11番16号

（所 属） 上田市都市建設部交通政策課

（氏 名） 木角 圭汰

（電 話） 0268-23-5011

（e-mail） kotu@city.ueda.nagano.jp